

平成 28 年度「こころに残る景観資源」指定報告書

指定資源の名称 []内は応募タイトル

- ① 岸和田城の水辺
[No.11:水辺に映る岸和田城、No.12 岸和田城の水辺]
- ② 久米田池の幻想的なハーモニー
[No.24: 青の久米田池、No.26: 久米田池・取水塔付近
No.28: 幻想的なハーモニー]
- ③ 蜻蛉池公園大池の水鏡
[No.38: 水鏡、No.42: 蜻蛉池公園・大池]
- ④ 積川町・水路のある古の町並み
[No.46: 積川町・水路のある古の町並み]
- ⑤ 意賀美神社横・雨降りの滝
[No.47 意賀美神社横・雨降りの滝]
- ⑥ 大沢町・サギも降り立つ棚田
[No.50: サギも降り立つ棚田]



1. 資源の詳細と選考委員会による講評

① 岸和田城の水辺



基本景観区域名: 旧市街・歴史景観区
景観軸: 堺阪南線(近接)
景観配慮地区: 歴史・伝統保全地区〔岸和田城周辺地区〕

アクセス

南海本線「岸和田駅」か「蛸地蔵駅」から徒歩約10分
ローズバス「市役所前」から徒歩約3分



■エピソードNo.11 『水辺に映る岸和田城』

岸和田城の周りを仕事の日はずっと散歩しており、ふと、水辺に映る岸和田城を見つけ携帯カメラで撮影しました。撮影した時は、特に珍しいものではないと思っていたのですが、この撮影以降、私自身一度もお目にかかれていないので、珍しくて歴史の風情あるものかと思ひ応募しました。

■エピソードNo.12 『岸和田城水辺』

「水すめば月うつる」先哲の言葉。「岸和田城は、春には青空にそびえる天守と、苔むした石垣、桜の景観が美しい」と恩師は言う。この大好きな風景が、水辺にうつる。めぐりくるたび私は平和を祈り、感謝す！！

■講評

岸和田城堀端の水辺は、400年以上続く城下町の歴史の風情が感じられるスポットとして市民に親しまれている。まさに岸和田らしさを象徴する水辺である。また、現在は空にそびえる天守と苔むした石垣、周囲の桜や紅葉に彩られ、堀の四周どこからでも地域の魅力が効果的に伝わっており、今後も地域固有の魅力を感じさせる市民の誇りであってほしい水辺である。

② 久米田池の幻想的なハーモニー



基本景観区域名：新市街地住宅景観区
景観軸：春木川景観軸(近接)
景観配慮地区：自然調和地区〔久米田池周辺地区〕

アクセス

JR阪和線「久米田駅」から徒歩約10分
南海ウイングバス「池尻」から徒歩約3分



■エピソードNo.24 『青の久米田池』

夏のはじめ頃に、朝早く久米田池に行って、朝日が出る頃に、久米田池がきれいな色に、そまってきたので撮影しました。普段の池と少しちがって幻想的に見えました。

■エピソードNo.26 『久米田池・取水塔付近(フナ漁の日)』

久米田池といえば、広大な灌漑用地、鳥の国際空港といったイメージがありますが、寒ブリナ漁の時期になると、ここは養魚地でもあるということ再認識します。この水辺での漁の日には、魚だけではなく、網に掛かるザリガニ、カメなどの水生動物や水草、藻なども目にする事ができ、漁のおこぼれ目当て？にダイサギ、アオサギなどの水鳥も多く集まります。また、この日は、私にとっては久米田池を利用してきた人々の知恵と、多くの生き物を育むこの池の豊かさや恩恵を、いっそう強く感じさせられる日でもあります。

■エピソードNo.28 『幻想的なハーモニー』

8月29日午前5時20分、散歩中東の空の朝ぼらけ。空と池の幻想的なハーモニー。

講評

久米田池は空と池の色彩が調和しており、幻想的な早朝の光景が非常に美しい。また珍しい野鳥の飛来や、ヘラ鮒漁を行なう生活景観など、四季折々の趣がある水辺である。冬には水が抜かれた池底に多くの野鳥が見られ鳥の国際空港といえる光景であった。また桜が楽しめる箇所や水生生物が見やすい場所などの視点場が設けられており、カメラマンが超望遠レンズを構えていたり、散歩やジョギングを楽しむ姿も見られた。また、維持管理を市民ボランティアが千人規模で行うなど市民に愛されている。今後も市民の力で地域固有の魅力を持続させてもらいたい水辺である。

③ 蜻蛉池公園大池の水鏡



基本景観区域名：里の景観区

景観軸：—

景観配慮地区：都市的整備地区〔岸和田丘陵地区〕

アクセス

南海ウイングバス「蜻蛉池公園前」から徒歩約3分



■エピソードNo.38 『水鏡』

とんぼ池公園のバラを撮影に、すこし時期が早いかなあと思いつつ出かけました。早朝からお天気もよく気持ちの良い朝で風もなく、大地に目がとまりました。さつきと新緑がきれいに写し出されてしばらくの間癒されていました。この水辺景観は誰にも観ていただきたい場所だと思います。

■エピソード42 『蜻蛉池公園・大池(東側池畔)』

四季折々の自然を手軽に感じることができる蜻蛉池公園ですが、お勧めは大池の東側池畔で、季節は晩冬です。初めてここを訪れた知人が、「トンボの生態が観察できるような、趣のある水辺が整備されているので『蜻蛉池公園』なのですね。」と勝手な解釈をしていましたが、池とはコンクリートと金網に囲われた所というイメージがあったからでしょうか。晩冬には、この時期ならではの美しい光、冬枯れした樹木などの佇まい、残り少なくなった冬を楽しんでいるような多くの水鳥たち…と興味が尽きません。

講評

蜻蛉池公園内の大池周辺は、夏はさつきの花や新緑、冬は落葉した樹木や透き通るような美しい光など四季折々の自然を手軽に感じることができる水辺である。良く手入れ整備された樹木や花々、秋に飛来する水鳥が季節ごとの魅力的な表情を作り出しており、市民に愛される水辺となっていると感じられた。今後も、豊かな自然が身近に感じられる場所としてどなたにも観ていただきたい水辺である。

④ 積川町・水路のある古の町並み



基本景観区域名：里の景観区
 景観軸：旧街道景観軸（牛滝街道、近接）
 景観配慮地区：—

アクセス

南海ウイングバス「積川神社前」から徒歩約3分



■ エピソードNo.46 『水路のある古の町並み』

稲葉町交差点から蜻蛉池公園に曲がると牛滝川にかかる橋があります。その橋から牛滝川に沿って菅原神社のほうに曲がると山間の森閑とした雰囲気です。自転車で市街から牛滝山に上がるので自動車では通れない道を走ろうと思って牛滝川から住宅を抜けていく路地を走っていると、突然古い町並みが現れました。聞くところによると古から都に繋がる人が出たり、近年ではお酒の蔵元が酒蔵を構えたりといったところだとか。酒造りもできたところなのか、水路を流れる水が市街からさほど離れていないのに綺麗に澄んでいました。

講評

積川町にあるこの水路は、周辺の旧家の町並みと一体的な景観を形成しており歴史の風情を感じさせる水辺である。ゴミひとつなく良好に維持管理がなされていることから、この水路は地域住民にとって心を癒す水辺として親しまれているように思えた。現在まで農業用水路として、地域の人々に大切に守られ続けている。美しいまちなみと共に将来に継承すべき水辺である。

⑤ 意賀美神社横・雨降りの滝



基本景観区域名：里の景観区
景観軸：牛滝川、津田川景観軸
景観配慮地区：自然調和地区〔神於山周辺地区〕

アクセス
南海ウイングバス「宮の台」から徒歩約2分



■エピソードNo.47 『津田川 意賀美神社横 雨降りの滝』

意賀美神社は大阪府自然環境保全地域に指定され、社叢は岸和田市の天然記念物に指定されています。常緑広葉樹林で林床植物が見られる典型的な暖地性照葉樹林の姿を残しています。ホルトノキやタイミンタバナが植生しています。津田川には木々の間から雨降りの滝があります。この滝は濃い緑の中で大変神々しく見え、この地域の水に関する信仰と深い関係があることが想像できます。黒いハグロトンボがたくさん飛んでいました。

講評

雨乞いの神として地域の人々に信仰されてきた意賀美神社の雨降りの滝は、深緑の中で見ると大変神々しく、歴史の風情と豊かな生態系を感じさせる水辺である。意賀美神社の境内は、夏でもひんやりとしており、日常から隔離された別世界のようなであった。人の手がほとんど入らない自然のままの滝は地域固有の魅力を効果的に伝えており、今後も多くの人に知ってもらいたい水辺である。

⑥ 大沢町・サギも降り立つ棚田



基本景観区域名：自然緑地景観区
景観軸：旧街道景観軸（牛滝街道）
景観配慮地区：自然調和地区〔牛滝山周辺地区〕

アクセス

南海ウイングバス「牛滝温泉せせらぎ荘前」から徒歩約1分



■エピソードNo.50 『サギも降り立つ棚田(大沢町)』

日本昔話に出てきそうな風景。棚田の水面が美しい。7月を過ぎれば、稲がぐんと伸び水面をあおあおと覆い、水辺が見えなくなるけれど。

講評

周囲の山々の表情の移り変わりや稲作などを通じ、四季折々の趣を感じさせる水辺である。現地を訪れた際には、田に水は無かったが、水が張られた棚田の美しさは想像に難くなかった。また、地域を訪れる観光客にも親しまれていると感じられた。地形を活かした棚田は、地域固有のふるさとも感じさせる魅力が効果的に伝わる風景を形成しており、今後もこころ和む水辺であってほしい。

2. 選考委員会による「第5回こころに残る景観資源発掘プロジェクト～こころに残る水辺景観～」総評

水は、人間の生活に不可欠であり、時には、大きな災害となり生活を脅かしますが、人々は、さまざまな工夫をこらし、生活の中に水のある景観を育んできました。岸和田市では、平成 12 年度に発行した「岸和田都市景観カレンダー(水辺編)」で紹介してきたように、多数の魅力的な水辺景観が存在しています。

昨年度、まちかど審査に参加頂いた方々に応募したいと思う「こころに残る景観資源発掘プロジェクトのテーマ」をお聞きしたところ、『自然景観』が最も多い結果でありました。また、平成 27 年に、築造から 1200 年の時を経た地域の風土である久米田池が、歴史的・技術的・社会的価値から世界灌漑施設遺産として登録され、地域に暮らす人々の誇りが高揚し、多様な主体による活動が展開されています。

これらを踏まえ、今まさに、多くの市民が「水辺」の魅力に再認識するだけでなく、良好な景観形成に寄与できる絶好の機会と考え、今回の募集テーマを「水辺景観」としました。

応募結果としては、岸和田城などのランドマークである場所をはじめ、市内各所から 52 件もの多種多様な水辺をご応募頂きました。

水辺景観の特徴としては、自然の力が織りなす景観、固有の生態系を有する景観、表情豊かに水が流れる景観、広がりや連続性を感じさせる景観、時間により移ろう景観、人間の営為が反映された景観、水辺にまつわる文化に彩られた景観、水との触れ合いと賑わいのある景観などがあります。

お寄せ頂いたエピソードでは、視覚のみによって水辺を捉えるのではなく、音や匂い等、人の心的現象として水辺景観を捉えており、興味深い内容でありました。また、応募写真についても「眺める対象が持っている属性(大きさ、色、形等)」、「視点として眺める人と眺められる対象との関係(距離や角度)」、「複数の対象を眺める場合の相互関係」などが適切に撮影されておりました。

市内6箇所で行われた「まちかど審査」では、これまでと同様に応募写真とエピソードを展示し、過去最多となる 1,017 名の方々が投票されました。今後も継続して欲しいという声があり、本プロジェクトが市民に親しまれる景観啓発行事として定着しつつあるといえます。

現地では、ため池の水が抜かれている等、エピソードと違う状態もありましたが、その光景を想像しながら、日常生活の場としての使用、維持管理の状態、周辺の土地利用に与えている影響、地域の魅力が効果的に伝わる視点場の形成、五感に心地よさを与える場としての魅力を考えながら、推薦候補を選定しました。

推薦する6件の水辺景観は、特定の景観区に偏ることなく、選定することが出来ました。今回、推薦に至らなかったなかにも大変魅力的な水辺が幾つもありました。次回は年間を通じ、より魅力的な水辺景観を発掘してもらえよう、第2回水辺景観の募集も開始しています。“私だけが知っているお勧めの水辺”、“小さくても魅力的な水辺”、“ハレの場としての水辺”など、市民みなさんから、まさに発掘の名に相応しい応募が数多く寄せられ、ますます魅力的な景観形成につながることを期待します。